

高島市今津地域住民自治協議会だより

# つながろう今津

第17号

令和7年12月25日発行

1月

福寿草



花言葉は「幸せを招く」や「永遠の幸福」。冬の終わりに咲き、春の訪れを告げる縁起の良い花です。

発行 高島市今津地域住民自治協議会  
事務局 今津町中沼一丁目4番地1  
今津東コミュニティセンター  
(今津公民館)

TEL 090-4927-3222

メール [info@imazu-jichikyo.org](mailto:info@imazu-jichikyo.org)

ホームページ

<https://www.imazu-jichikyo.org/>



## 魅力再発見の“まち散歩” 今津壱番市

10月26日、時々雨がふるあいにくの天気になりましたが、琵琶湖周航通りから浜通りにかけて、地域の魅力再発見!と題し、今津壱番市を開きました。

地域のお店や活動しているグループなどが、通りに自慢の一品を趣向を凝らして並べ、住吉神社では、巫女さん体験や「いまづおはなしサークル」の紙芝居、「オカリナのんのん」の演奏会が開かれ、多くの人が足をとめ楽しまれました。

近江葦海太鼓の太鼓体験やこども舞踊湖島会がもちつき、高島市消防団今津分団の消防車展示、今津中学校校友会がキーホルダーなどを販売するなど、今までの壱番市になかった新たな取り組みやブースも多くあり、各ブースでゆっ



くり話しながら散歩されていたのが印象的でした。

当会では、街道復活を基本に、琵琶湖周航通りから浜通り、ヴォーリス通りへと“まち散歩”を楽しんでもらうことを、まちづくり計画に掲げています。



作詞者

## 琵琶湖周航の歌の会



### 小口太郎のふるさとを巡る「歌碑めぐり」

今津の宿で誕生した琵琶湖周航の歌は、令和7年(2025)に108周年となりました。歌の誕生には、いくつもの物語や謎があり、歌だけでなく多くの人々を魅了してきました。

原曲の「ひつじ草」は、誰が作曲したのか謎でしたが、熱心な研究者と劇的なつながりにより判明するなど、会では、誕生した背景を知り、次代に語りつないでいこうと取り組んでいます。

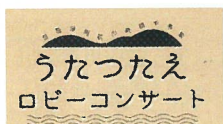
今回、歌碑巡りの一環で作詞者である小口太郎の出身地、長野県岡谷市の諏訪湖を訪れました。



11月15日、今津を出発し一路長野県へ。車窓から紅葉が始まる景色を見ながら、諏訪湖畔の河川公園に立つ作詞者、小口太郎像と歌碑をめざしました。

地元で、小口太郎顕彰碑保存会の皆さんと合流。小口太郎のお墓に案内いただきお参りしたのち、顕彰碑を訪れました。像と歌碑は、昭和63年、太郎誕生90年を記念し岡谷市が建造したものです。

保存会の皆さんと碑のまえで琵琶湖周航の歌を合唱し、交流を深めました。



11月29日、今年度最後の「うたつたえロビーコンサート」が、高島市民会館ロビーで開かれました。

これは琵琶湖周航の歌が、未来に歌い継がれるように、歌に気軽に親しんでもらおうと企画されたものです。今まで、7月にふーふーず、9月に今津中学校吹奏楽部が演奏しました。

今回、ピアノの弾き語りで滋賀県出身のシンガーソングライターのKizashi(キザシ)さんが、懐かしい歌からオリジナル曲まで、やわらかな歌声で歌いあげました。

最後は、参加者と琵琶湖周航の歌を大合唱。

あたたかい雰囲気でのコンサートに拍手が止まりませんでした。



会では歌い継がれて100年を超える周航の歌が、地域をつなぎ、これから100年も、次世代に引きつないでいくことをめざして活動が続けていくことにしています。

また、琵琶湖周航の歌の特集が平成元年創刊の地域情報誌「み～な」に掲載されました。「み～な」は湖北地方を中心に発刊され、今回歌をさまざまな切り口で取りあげ読み応えのある一冊となっています。ぜひ、ご一読ください。



お問い合わせは、長浜み～な編集室 0749-63-0317 まで。(定価 580 円込)

会では活動に賛同いただける方をひろく募集しています。お問い合わせは、090-4927-3222(つながろう今津)または E-mail:biwautanokai@gmail.com(歌の会) までどうぞ。

知ってる? 街ネタ



# 一段とバージョンアップ!!

今年も JR 近江今津駅西口広場に、鮮やかなイルミネーションが登場しました。地元有志らでつくる街にあかりをプロジェクト実行委員会が、2022年から設置。

「年々、大きく豪華になってるなあ」との声も。今津東・北小学生や今津中学生も、ペットボトルに夢や希望を書いた作品、約600個も展示され、11月29日の点灯式には多くの家族連れなどで賑わいました。



## 松陽台区でゴミ分別ゲーム

11月2日、松陽台区で区文化祭が開かれ、ゴミ分別の再確認をしてもらおうと、防災地域連携部会が、ゴミ分別ゲームをおこないました。

ゴミのイラストを分別するゲームで、「どっちだっけ?」と悩む人も。中には難解なものもあった。



「なるほどそうか」と納得したようです。正しく分別して減量できればと取り組んでいます。

## いっしょに!楽しく!!

今津地域まちづくり計画 2024-2028 の実施計画のひとつに、当自治協の仲間の輪を広げることがあります。多くのいろいろな人の考えや行動をもって、基本構想の実現をめざすことにしています。



## オリーブフェスタ 2025



10月13日、南深清水 FF 倶楽部が主催するフェスタが、南深清水のオリーブ園で開かれました。

収穫や選別、オリーブオイルのテイスティングを体験するコーナー、オリーブ関連商品の販売や飲食ブース、地元バンドの演奏など楽しいイベントが盛りだくさんのフェスタでした。

手づくりのおもてなしとオリーブが楽しめるとあって、家族づれなどで賑わいました。初めてオリーブを触る子ども達も興味津々でした。



月・水・金・土は東コミセンに!  
お気軽にどうぞ

できることから、ぜひ一緒にやってみませんか? いっしょに楽しく、合言葉です。



# ふるさと今津をもっと知ろう

## 今津街探訪

今津東小学校では6年生が地域学習として、今津の歴史、自然、地場産業、戦争、観光、文化・祭りの6グループにわかれ、テーマに添って街を歩き学習しました。当会の歴史文化部会といまづ自然観察クラブの前川勉さんの協力で案内しました。

小浜につながる九里半街道の起点となる北



浜やヴォーリズ資料館などで歴史を、西福寺や泉慶寺では戦争時の出来事を、阿志都弥神社・行過天満宮では祭の由来などを紹介しました。自然グループは、今津周遊基地で今津の木々や花などを解説。児童はメモをとりながら聞き入っていました。いろいろな発見がふるさとへの想いにつながればと思います。

今津中学校1年生が10月28日、今津が発祥の地である琵琶湖周航の歌とその歌碑を探訪する学習の一環で、今津の街を班に分かれて巡りました。

今津をよく知ってもらうことで誇りを持ってもらえればと、歴史文化部会が琵琶湖周航の歌資料館や今津港、浜通り、辻子、代官屋敷跡、ヴォーリズ資料館などをガイドしました。



## 琵琶湖の自然をそのまま未来に

10月15日、今年も今津周遊基地の湖岸で、今津東・北小学校、今津中学校と環境を守るいまづの会、今津民児協、今津赤十字奉仕団、地元区、団体が連携し、琵琶湖固有植物ハマヒルガオの保全や特定外来生物・ナガエツルノゲイトウの駆除など環境学習を開きました。

滋賀県から専門家を招き、午前中は各学校で琵琶湖の現状などを学習。午後、現地で活動しました。外来植物は、根まですべて掘り起こして確認するなど、身近におこっている環境について学んだ一日でした。



## 編集後記



「一年の計は元旦にあり」ということわざの由来の一つとして、戦国大名・毛利元就の言葉「一年の計は春(新年)にあり、一月の計は朔(ついたち)にあり、一日の計は鶏鳴(鶏が鳴く早朝)にあり」があります。年の初めに一年の事をじっくり考えるということ。さて、皆さんは年の初めにどんな計画をたてられたでしょうか？